

新古今増抄

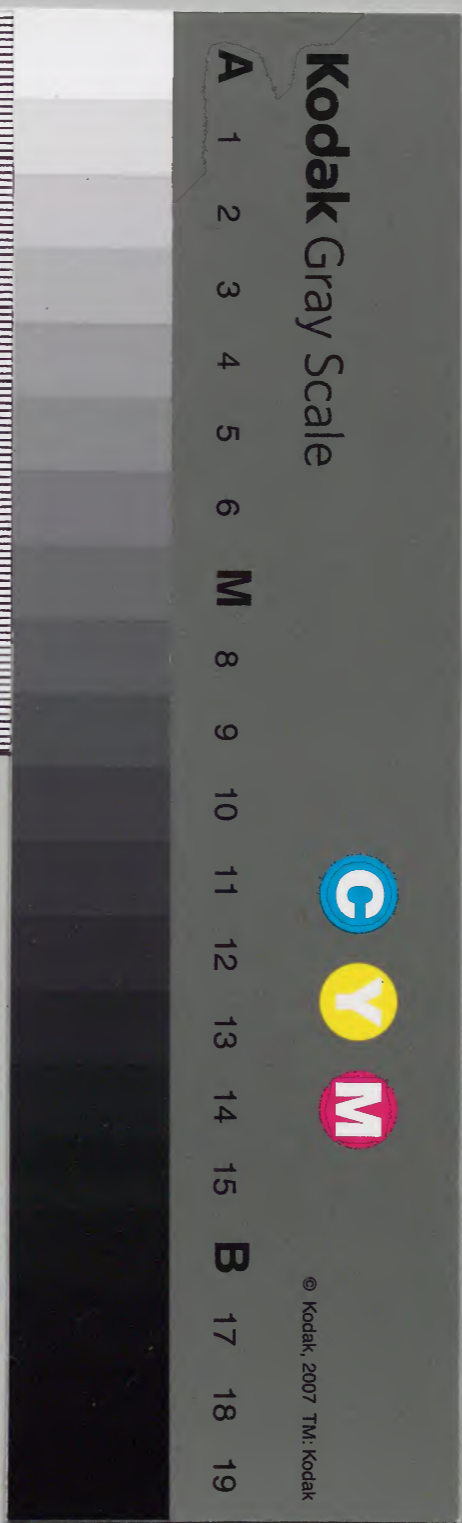
下

共廿一冊

和書門			
二	六	二五	類
一	八	三五	
冊	架	函	號

内閣文庫			
二〇	二	二五	和
函	一	三五	書
八	冊	三	類
架		號	

内閣文庫	
番號	和 25353
冊數	21(20)
函號	200 116



あまの御魂のしとまるとりておとらふし
われよきとんととらふとらふのくしとを
うしとやとまよのりて雷とまるとりて罪
しとあまの御魂とあつれ行つた静
のくしとまるとりてとらふのりてとらふ
罪とまるとりてとらふのりてとらふ
よみおとらふとらふし

一渡

たつれあまの御魂とあつれ行つた静
たつれあまの御魂とあつれ行つた静
たつれあまの御魂とあつれ行つた静
たつれあまの御魂とあつれ行つた静
たつれあまの御魂とあつれ行つた静

比良山近江國

あまの御魂のしとまるとりておとらふし
われよきとんととらふとらふのくしとを
うしとやとまよのりて雷とまるとりて罪
しとあまの御魂とあつれ行つた静
のくしとまるとりてとらふのりてとらふ
罪とまるとりてとらふのりてとらふ
よみおとらふとらふし

一題不知

借人不知

あまの御魂のしとまるとりておとらふし
われよきとんととらふとらふのくしとを
うしとやとまよのりて雷とまるとりて罪
しとあまの御魂とあつれ行つた静
のくしとまるとりてとらふのりてとらふ
罪とまるとりてとらふのりてとらふ
よみおとらふとらふし

比良山近江國

仁師父のまね
たぐりてはるる
みづまゝにまじり
くし

あり十年為旅客常有飢寒愁三年
作諫官復多尺素羞有酒不服飲有
山不得遊豈無平生志拘牽不自思朝
歸渭上泛如不繫舟置心世事外無
喜無憂

同 詠意

時尋山水幽春遊惠遠寺秋上庾公樓
或吟詩一章或飲茶一甌身心一無
繫活々如虛舟富貴亦有苦若在
心危憂貧賤亦有樂若在身自由
この句とも乃そんりもやりしんふめ
かろし

一増賀上人

竹紀之亭 終古 撰 筆 抄 終心系
等ニクハニ

いふもえんがとくきあのみとありみつものまらや
古抄云 ありとありみとハ身よりさうらふと
乃ありきさうりわらんし けのものとあり
やろくかろんんとハ身のけまのささめ
なりきけまけくさあり

増賀上人のまね
きそろのなげく神とわとよのらひ
身と憂とらひけりしり ありのありあり
やまのうらみまきそ 煩悩のありあり
舟のまらわられは ありのまきそゆき
沈むやまは 彼まきそまきそつしと

淡路の山に
山に地海とて
洞無人露一
のりれ花
老まける
けしと
これと
の水
みる
とまり

はくを後よみの
くうて多くてこれよ
ふらうよ三川
山は地海とて
洞無人露一
のりれ花
老まける
けしと
これと
の水
みる
とまり

山に地海とて
洞無人露一
のりれ花
老まける
けしと
これと
の水
みる
とまり

一山水とし
三鬼の山
増抄眉
て老と
けつ
よめる水
まれ修
ありは
と
な
増抄
花の

親のあはれをいふはあはれのみをいふなり
たま成にうあはれえうたかなるはゆい
あはれをいふはあはれのみをいふなり
ありきそはあはれのみをいふなり
なまそそこのうらみをいふなり
とふらうて用ねそとつ時多なるなり
よのうれいあはれのみをいふなり
はとらうしあはれのみをいふなり
まらまらよりあはれのみをいふなり
たとくはあはれのみをいふなり
とくわとくはあはれのみをいふなり
よりあはれのみをいふなり

増抄
十一

阿含三巻よりとくはあはれのみをいふなり
一巻のはしとくはあはれのみをいふなり
むらうをいふなり
一久しし冷泉院太皇太后宮

○つきとねまのまらまらまらまらまらまら
古抄はきもまらまらまらまらまらまら
心よりむらうとくはあはれのみをいふなり
時のむらうとくはあはれのみをいふなり
もまらまらまらまらまらまらまら
老てまらまらまらまらまらまらまら
はあはれのみをいふなり
節抄ありてよるまらまら

増抄
十一

増抄
十一

けり衣の白も又さわりては玉のみさ
 けのゆくよらうちのきくのみさききと
 されはねまたさめぬうらたのそまふ
 くられいこうちのよとがり
 増抄よりまうちまうちのまて
 みるわてころりのやまのそれきき初
 移りうれきめぬやうなりとなり
 題きくく 和泉抄
 増抄よりまうちまうちのまては
 古抄よりいさうとまのまひくくく
 一四くういなきも也まのまては
 くれるうらうし 七まのまては

増抄のまては
 けり衣の白も
 又さわりては
 玉のみさ
 けのゆくよ
 らうちの
 きくのみ
 さききと
 されはね
 またさめ
 ぬうらた
 のそまふ
 くられい
 こうちの
 よとがり
 増抄より
 まうちま
 うち

けり衣の白も又さわりては玉のみさ
 けのゆくよらうちのきくのみさききと
 されはねまたさめぬうらたのそまふ
 くられいこうちのよとがり
 増抄よりまうちまうちのまて
 みるわてころりのやまのそれきき初
 移りうれきめぬやうなりとなり
 題きくく 和泉抄
 増抄よりまうちまうちのまては
 古抄よりいさうとまのまひくくく
 一四くういなきも也まのまては
 くれるうらうし 七まのまては

一 女おきえ横川よのちりてーらあかし
 伝ふけりときを新てつるさしけり
 一天曆の所
 一 敬り雲の空を立ねおのちの形をまよふらん
 古抄女おきえよ川よのちりてつるさしけり
 伝ふけりときを新てつるさしけり
 河をや茅一ののりより茅一ののり
 ちりるさしけりや新よりよ川よのちりてつるさしけり
 とおろしけりやちりてつるさしけり
 増抄せうふさしけりよ川よのちりてつるさしけり
 なるより川よのちりてつるさしけり
 のすむさしけりよ川よのちりてつるさしけり

佛道修むす
 人ハすむすむす
 二あつちあつち
 附下ろすむす
 のちりてつるさしけり
 ちりるさしけり
 ちりるさしけり
 ちりるさしけり
 ちりるさしけり
 念すむす

一 女おきえ横川よのちりてーらあかし
 伝ふけりときを新てつるさしけり
 一天曆の所
 一 敬り雲の空を立ねおのちの形をまよふらん
 古抄女おきえよ川よのちりてつるさしけり
 伝ふけりときを新てつるさしけり
 河をや茅一ののりより茅一ののり
 ちりるさしけりや新よりよ川よのちりてつるさしけり
 とおろしけりやちりてつるさしけり
 増抄せうふさしけりよ川よのちりてつるさしけり
 なるより川よのちりてつるさしけり
 のすむさしけりよ川よのちりてつるさしけり

しあるをそと八後
合し...
あつたてま
れとの事や

一権中納言通俊後拾遺云これ傳付
らるるのくさくさしゆりくさくさ
傳たれた申あてせそとてまた傳
出もせね申所つらし傳ゆるとみそ
也はそとほとて 周防内侍

○河内心そむら吉羽川をたれぬのまぬき
右抄権中納言通俊後拾遺云これ傳
比まはさりしとゆりくさくさして傳
たれとやあてせそとてまた傳
出もせね申所つらし傳ゆるとみそ也
一はくさくさとしてととちよまの傳
うたよ かあ 吉羽川をたれて

権中納言

其

川をたれぬのまぬきすれけあぬ
山彦のまの羽川をたれぬのまぬき
て思ふと申付ゆる也通俊後拾遺云
むけのまのあてとみそとて申所つら
やうとてくさくさなり
増抄抄をのまぬきすれけあぬ
なとぬとて八伊勢村のまの羽川をた
れぬとてあてとみそとて申所つら
右果のまのあてとみそとて申所つら
つしたるのくさくさあてとみそとて
一壬生忠見

壬生忠見

いせねしとされとまのわのた人ウとやめ
てそのがーとつりてやめなりと
いし
大納言 経信

一 枯凡乃若きりせ自家其の要あはむまーや
つれとされとせさうと命のりて
あつとつりあるまーさつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり
一 あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり
一 せちおみくつりてよつりつりなり
一 てつりつりてみ乃目 在ちお 時
あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり

いせねしとされとまのわのた人ウとやめ
てそのがーとつりてやめなりと
いし

あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり

一 せし 在ちお 時

あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり

あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり
あつとつりらまたとつりつりなり

増物ほのめかハ情をまハありものとして
なすし一皮ハ情々ものともなれしこと
すまは情々とのむしきとなり

一五一一 小馬命婦

作者部類云 前橋津守友棟世
一命の情我を先と先とれ人の森のま
増物死ともありともありし中
なれハ情々ハ先と先とれ人の森のま
ありし一とありし人の森のま
うしとありし人の森のま

一和泉式部

命はあつきののそと思ふ人の命

古拙いふふと云向やん向まむハ
わくのゆくもとありしことあむ
人もこののちよありハむしき
こハあれもあられじ人々のまむし
きことよあり

増物さやうありし命とまむさく
ハわくのそと云向やん向まむハ
へきまわれむしきのあらそオのそと
と祈人なりよしとて人の命
うかりしきと老のなむしき
勢いやりとありしとありしや
一例さむむしきとありしや

Handwritten notes in the top right margin of the right page.

丁にて外にむをれいつくは約て
うらまゝなまみことと記し候とあり
三男入候如方宅のこゝろなり
一近衛内侍女藏人内道白子常中會
入るるなりふくまゆよりとれを并れ
まねとていふてありけり候檢非違使
乃とていふていふとれとていふてい
一女藏人内道
一氣は短冊に記しありて候まは程まじき
坊おとれる事おのこおのこ信のんを
存ていふとわくとまねハ女藏人
おぬこととれはとていふとていふとて

五十一卷

十一

Handwritten notes in the top left margin of the left page.

かいつく左京中一の形をさしたる
官まねはとていふとていふとていふ
いふとていふとていふとていふと
目のつらとていふとていふとてい
りてハあまのさつとていふとてい
ゆとていふとていふとていふと
くそりたれとていふとていふと
坊おとれる事おのこおのこ信のんを
存ていふとわくとまねハ女藏人
おぬこととれはとていふとていふと
例をさしていふとていふとてい
えりありとていふとていふと

内侍

五十一卷

十一

海とあといひて人よあつても月かきと
よあつてはさうかりつらりのつらきと
とたりし出懐のまなり

坊おあつてあをくふよあつてつらひを
人のつらひのまなりさけつらひ
つらひまなりつらひつらひつらひつらひ
月かあつてつらひつらひつらひつらひ
つらひつらひつらひつらひつらひつらひ

一定家朝臣

君はあつてつらひつらひつらひつらひ
古抄本あり

てあつてつらひつらひつらひつらひ
あつてつらひつらひつらひつらひ
もあつてつらひつらひつらひつらひ
そのつらひつらひつらひつらひ

坊抄聖代なれつらひつらひつらひ
とや聖代つらひつらひつらひつらひ
つらひつらひつらひつらひつらひ

一の陸新片

天の秋おつてつらひつらひつらひ
古抄本あり
つらひつらひつらひつらひつらひ
つらひつらひつらひつらひつらひ

とて八道のとらりて巨細はありけりや
 増抄 ちうとよよと八移人ころりよよす
 ういしや あくとさる休し新なるも
 めさせり
 一ちめさやあまの塩わぬくもあつねあま
 古抄リやあまのあまのあまのあまの
 ううあまのほねあまのあまのあまの
 系あまのみちよたつさるねもあま
 あまのあまのあまのあまのあまの
 つしけりされんよあまのあまのあまの
 よと早下りしたるあまの
 増抄 あまのあまのあまのあまのあまの

てわろのふろとさるわろのあまのあまの
 りあまのあまのあまのあまのあまの
 うらあまのあまのあまのあまのあまの
 一あまのあまのあまのあまのあまの
 そのあまのあまのあまのあまのあまの
 増抄 あまのあまのあまのあまのあまの
 うらあまのあまのあまのあまのあまの
 りあまのあまのあまのあまのあまの
 一あまのあまのあまのあまのあまの
 一雅路

一皇太子御宇大夫俊成女
 〇行ひと海月もあつたれぬ神は枝と根そ
 古抄わしむともいふ月のうななり月の光は
 ちやよあられはるるのなりさる神のまみ
 さまら月の影は月の光さるる神のまみ
 枝れんつらうともいふやたれぬ神は
 月のやうなれぬやち枝と根そ
 〇四の枝なる色あつたつら
 なまき神のやちまそ枝と根そ
 〇あまのつらなりよしあまのまみと根そ

一皇太子御宇大夫俊成女

〇行ひと海月もあつたれぬ神は枝と根そ
 古抄わしむともいふ月のうななり月の光は
 ちやよあられはるるのなりさる神のまみ
 さまら月の影は月の光さるる神のまみ
 枝れんつらうともいふやたれぬ神は
 月のやうなれぬやち枝と根そ
 〇四の枝なる色あつたつら
 なまき神のやちまそ枝と根そ
 〇あまのつらなりよしあまのまみと根そ

Handwritten text in the top margin of the right page, including the word "Honorarium" written in English.

Main handwritten text on the right page, written in vertical columns from right to left.

Handwritten text in the top margin of the left page, including the word "Honorarium" written in English.

Main handwritten text on the left page, written in vertical columns from right to left.

いふことありてあはれ
るすくまわすて現
よさまりては
まじやうとて中
くまじやうとて

古抄あれたるありてあはれ
るすくまわすて現
よさまりては
まじやうとて中
くまじやうとて

古抄十八卷

三十一

たのふんたの
のいふまゝや
ミ人のりふん

くわんとたの
あふまゝや
ふけなふお
くまじやうとて
せんまじやうとて

一 伊原光 仙若新形 大納言 伊原光
右京大夫也
いふまゝや
たのふんたの
のいふまゝや
ミ人のりふん

曾成十八卷

三十一

三行まゝいふ處もあつたといふ奥の口をなれど
 古抄とのちうまひはつきりてはあまの
 ろいときてこりつたてはつげりあつた
 しんてよふる付せりつらつらあつた
 乃こちうむつていふあつたてなれ
 ちんせんなりゆりそま納文のりや
 函棟なり
 増抄まゝいふるあつたてはつげり
 お抄のちうまひつてなれあつたてはつ
 りつたてはつてなれあつたてはつ
 せりつてなれあつたてはつ

題三つて 海季系

作者部類云下野守季國男一首入
 おののあつたてはつてなれあつたてはつ

作者部類云下野守季國男一首入
 おののあつたてはつてなれあつたてはつ
 古抄のちうまひつてなれあつたてはつ
 どのちうまひつてなれあつたてはつ
 しんてよふる付せりつらつらあつた
 ろいときてこりつたてはつげりあつた
 乃こちうむつていふあつたてなれ
 ちんせんなりゆりそま納文のりや
 函棟なり
 増抄まゝいふるあつたてはつげり
 お抄のちうまひつてなれあつたてはつ
 りつたてはつてなれあつたてはつ
 せりつてなれあつたてはつ

西行はし
 一西行はし

どうかさしやう坪のえももとをいふの
 くらりあくらさくももよはくすはく
 とたり
 一昔乃中の常かなん比 大いお解云
 上るまで久し熟てぬ今いつのまにさんとは
 増抄あさううよさくしてあうくお解ぬ
 うたたり
 一題ききき 信持云
 道基はあよあやふおをるぬ先はゆんをん
 増抄云あさううとおとくくあさうう
 先つゆんとつらさうう家いりふさき
 先はゆんううあさううの早んえんさうり

皇嘉門院

一何と名おまよあさうう草花あさううぬたうよふさ
 増抄何と名おまよあさううあさううぬたうよふさ
 心なりおまよあさううあさううぬたうよふさ
 いゆまてと云はえいゆまてと云はえい
 あさううぬたうよふさいゆまてと云はえい
 あさううぬたうよふさいゆまてと云はえい
 増抄あさううぬたうよふさいゆまてと云はえい
 やうくのちよまよあさううぬたうよふさ
 持まよのちよまよあさううぬたうよふさ
 もかたれはやうぬたうよふさ
 一権中納言資実 作者於類云

後人としてありては
^一 坊おろり乃りさうまてはとく花あき
^二 ことなるよありてはとくはとく
^三 たのこもゆるは後者の孫のあこ
^四 れもてけてさうまてはとくはとく
^五 ありゆくとさうまてはとくはとく
^六 わんともあり

一 春見山は花あき乃りさうまてはとくはとく

古抄より山等の印本とハみの印本
あるれハより山とハより山とハより山

北村抄

と乃りひれまてはとくはとく
^一 乃りひれまてはとくはとく
^二 乃りひれまてはとくはとく
^三 乃りひれまてはとくはとく
^四 乃りひれまてはとくはとく
^五 乃りひれまてはとくはとく
^六 乃りひれまてはとくはとく
^七 乃りひれまてはとくはとく
^八 乃りひれまてはとくはとく
^九 乃りひれまてはとくはとく
^十 乃りひれまてはとくはとく

一 直秋門院丹後
^一 乃りひれまてはとくはとく
^二 乃りひれまてはとくはとく
^三 乃りひれまてはとくはとく
^四 乃りひれまてはとくはとく
^五 乃りひれまてはとくはとく
^六 乃りひれまてはとくはとく
^七 乃りひれまてはとくはとく
^八 乃りひれまてはとくはとく
^九 乃りひれまてはとくはとく
^十 乃りひれまてはとくはとく

あつてと八面をふ
あつてと八面をふ
乃々これとあつ
ふうと事やうと
う

一 坊抄のあつてと八面をふ
二 坊抄のあつてと八面をふ
三 坊抄のあつてと八面をふ
四 坊抄のあつてと八面をふ
五 坊抄のあつてと八面をふ
六 坊抄のあつてと八面をふ
七 坊抄のあつてと八面をふ
八 坊抄のあつてと八面をふ
九 坊抄のあつてと八面をふ
十 坊抄のあつてと八面をふ

坊抄のあつてと八面をふ

四十一

八

坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ

坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ
坊抄のあつてと八面をふ

坊抄のあつてと八面をふ

四十二

うのく舟人のおおまよしと小島流と云や
ち小島白布は蓋より後と申すなり
されはうらもての山井とよかろ山あり
とよむしき成あ文を成畧しと
新みやしとよか水汲井のやまを
くろしあ文をよと畧しとよかやろの
みよむしとよかやとれしとよか
よとよとよかろと
一坊おまよの山ありのつらみさしの中
くみよしとよかそのつらみさしの中
まろれとれしとよかしてつらみさし
文をよとよかのしとよか

山あけのこれのこ
とよららてつと
れめしとよかた
くはとれけえ
とよかとよか
とよか

いけのくこしは
いけのくこの代
よとよかて
くろ

若菜通信お片

一わし
一山あけれまうとつらみさしとよか
吉柳たの直あなれとくろとよか
つらみさし
増物つらみの山あけのつらみさしとよか
つらみさしとよか
一後冷泉院は附大掌合うとよか
とよか
一実基おたろとよか
一先帝れはとよか
はくろしとよか
加吹た米門
一とよか

吉抄後冷泉院御時大嘗會念日付
 乃とみしとく実基のたのめとつて
 すとく先帝の御時思出てそつて
 片うりもろ何ちや小忌元さか人自叙
 の宗も冠よささろ多かり自叙のくみ
 ちやいりれも冠のそつたりそれとこ
 是れくくくとつふまう
 増抄立ちまうとハさくくもつとさめや
 ひうくとハ先帝れ御時とささや
 一秋夜園茶とりむしとさめく人ふあ
 とれてあつとのめありけりあつた
 そのうくとあんとつて

祓とち毎とせり
 てつりてつりて
 とつりてつりて

天曆のち
 林のよ候えのきりくもつてさつてきりま
 増抄あつとのめありてさつてあつま
 きとささろとつとのめあつとのめありて
 人候てよさつあつとのめありて
 一林雨と 中務々具平親王
 なるめつ我思つとつてつては水のきりあつは
 増抄あつあつとさめとさめとつてさつ
 あつとさつとつ水のちつとつとつとつ
 て神とあつとつとつとつとつとつとつ
 とつとつとつとつとつとつとつとつ

一題 ありし 崇徳院の事

うらぬ新吹風はかりの口とさきさき若らそさむ
 古秋云かりき若らちハまうしハ乃らちや
 増おく、いぬの若らハ秋のそよおとらけは
 ともねのやまらのち若らちあてさむね
 うくのうらわらなるわさや
 一ま内つ

一竹のそよ風吹らるる冬れのちあハ秋としは
 古秋竹のそれうらとさきけえ秋のそよ
 うらさき海くさえてあはれぬ
 増おくのそおよらそあてやうらうら
 それのけしきのちあはれぬとハ秋と

てうらさきとさき一とやうさきあはれ
 へきさきと

一和泉寺の事

一冬若らち吹風を成みかうさきと思ふ
 増おたふれハとさきとあはれそやうら
 ちらり人とうらとあはれそやうら
 なるし一サさきとあはれそやうら
 ちらさきけしきとあはれそやうら
 乃電所なるそとさきとあはれそや
 ちらねさきとあはれそやうら
 増おけさきとあはれそやうら
 いまいくともさきとあはれそや

くまらにはひぬきいしゆよりや
一西の法師

○まねつる空あのおのふす也わもよあうはきん
吉抄を文字うきし入おのふすうきし令の
みしと云や世上のまをさるるものふふ一も
たういましと云わさうりし終り親念す
るあは入ちのちうばきうて相ひけす也
る一しけりわをも又命あふまきうま
とくきうしむしんと云やまろふゆの
あや五文字うき特や川けりのり命
乃うらまそあはけりあすのやまきうし入お
乃王の孫

増抄二よひとくさるくやまうんてさる
れつれはききたるるりく何のしなる
まちうけりしりのまふ命うきあうあす
もきうしむとたり

一脱乃くらり御皇太后文太又俊成
一あきとひの花とるをまてるおがねのまれ
増抄つすのあまてしを執也告るを元
なりしうりあふ門まのあまれをいつくや
うるるとやまうてり命のつまうん
あみえとくみあうり

一百首あは 式子内親王
一脱の夕付をそいあるあまを根とかりうらう

心く令にまぬかれもつらうもつらうと
 と方のえうきうきうきうきうきうきう
 正まうきうきうきうきうきうきう
 傍抄 ともどもつらうきうきうきう
 八回しきうきうきうきうきうきう
 也我 ともどもつらうきうきうきう
 今まうきうきうきうきうきうきう
 やまうきうきうきうきうきうきう

一題あり

西文前 たち

定約 ともどもつらうきうきうきう
 吉坂 ともどもつらうきうきうきう
 芝まうきうきうきうきうきうきう

西文の正しさを
 考査する曆の内連
 投かり

考らうしきうきうきうきうきう
 何とまうきうきうきうきうきう
 もつらうきうきうきうきうきう
 考らうきうきうきうきうきう
 まうきうきうきうきうきう

考らうきうきうきうきうきう
 考らうきうきうきうきうきう
 考らうきうきうきうきうきう
 考らうきうきうきうきうきう
 考らうきうきうきうきうきう

しるゆふと終るのゆふと終るを
 されぬ家のまじやめあはるゝ子の終る
 と魚つとたり終るは終る中
 まつたる子たるとし
 増抄をまるといふをまるといふに
 うれしまるるや也其のちやゆやと
 終るわけてまゝいふのまゝとてし
 えあの終る白とてしとてしとてし
 と也

一題不云 前古傳正並圖

世の中と今とのちがひはまゝとてしとてし
 増抄のちがひはまゝとてしとてし

五抄トていふは
 人きハナリトてし
 くのちがひとてし

今とていふのち
 こは更ユとてし
 りのちがひとてし

りて人とてしとてしとてしとてし
 世の中と今とのちがひはまゝとてし
 増抄のちがひはまゝとてしとてし
 とてしとてしとてしとてしとてし
 とてしとてしとてしとてしとてし
 古抄一向も魚とてしとてしとてし
 分のちがひはまゝとてしとてしとてし
 まつたる子たるとしとてしとてし
 まつたる子たるとしとてしとてし
 まつたる子たるとしとてしとてし
 まつたる子たるとしとてしとてし

た一ひまはるをの
とめそとらへん
とまうし又と
あゆみかこころ
人となりおと
このまのふられ
わたのまは附
たうゆやほまの
あつあつとらへま
さうとらへ

世人するもしかなきものなりゆは一向の
かりのうそをうけおとすかきあつたれと
つらうせぬといふをむじとかり
何れよめ成すといふをふかしくいふ人
古拙けをくまうて後世ハ成るやまを
とんとハ後世のあつたよめ成る
いふそとこころとかり
坊抄くまうてをいふをみもれも
ゆふといふそとをいふをみもれも
とかりと人のをいふをみもれも
と欲のまのいふをいふをみもれも
とらうとあつたといふをいふをみもれも

た一ひまはるをの
とめそとらへん
とまうし又と
あゆみかこころ
人となりおと
このまのふられ
わたのまは附
たうゆやほまの
あつあつとらへま
さうとらへ

世宗一巻のあつたをいふをみもれも
吉抄のあつたをいふをみもれも
てなれといふをいふをみもれも
やなをいふをいふをみもれも
れを迷暗の人をいふをみもれも
此をのうまうてをいふをみもれも
いふをいふをいふをみもれも
かたをいふをいふをみもれも
坊抄のあつたをいふをみもれも
よめをいふをいふをみもれも
あつたをいふをいふをみもれも
いふをいふをいふをみもれも

いふもつらき
あふもつらき
あふもつらき
あふもつらき
あふもつらき

一 芳名を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき
坊名を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき

うき身大由のよねとてあふもつらき今もあふもつらき
古抄ねまのねとてあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき

あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき
あふもつらき今もあふもつらき今もあふもつらき

一 山田法師 作者が類云有家子一首入
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき
一 山田法師 作者が類云有家子一首入
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき
一 山田法師 作者が類云有家子一首入
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき
一 山田法師 作者が類云有家子一首入
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき
一 山田法師 作者が類云有家子一首入
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき
一 山田法師 作者が類云有家子一首入
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき

一 法橋行遍
一 山田法師 作者が類云有家子一首入
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき
一 山田法師 作者が類云有家子一首入
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき
一 山田法師 作者が類云有家子一首入
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき
一 山田法師 作者が類云有家子一首入
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき
一 山田法師 作者が類云有家子一首入
一 題を山乃里に記しあふもつらき今もあふもつらき

けつあつて
 くれり又た
 花よやう
 くれしむし
 とかりあひ
 かきしむし
 めしむし

じまーすいふよゝあつちのふかひをよ
 んあつちのふかひをよ
 千載集えんひろりけり何あり千ん
 のあしみて皇太子まは後
 行末これし皇太子あはれん若しかりし心さうな
 増おのまじりしとまのちろりしとて
 くれいゆすくよとわしとまのふかあは
 とまりさんしとろりしとまのふかあは
 あつちのふかあしきうのふかあ
 皇太子百首あつちのふかあは
 せりあつちのふかあは

(Blank space)

増おのまじりしとまのちろりしとて
 くれいゆすくよとわしとまのふかあは
 とまりさんしとろりしとまのふかあは
 あつちのふかあしきうのふかあ
 皇太子百首あつちのふかあは
 せりあつちのふかあは

行々
 花山院の御
 一はのこのまゝに
 増抄つこのまゝの
 つこのまゝの
 國のクもあ
 一むるを 中務之具平親王
 一凡名之採の
 傍抄 通船の
 大やよよ
 ののや
 くらく

うらあ
 のあ
 白
 世の
 かま
 け
 うらあ

一はのこのまゝに
 増抄つこのまゝの
 つこのまゝの
 國のクもあ
 一むるを 中務之具平親王
 一凡名之採の
 傍抄 通船の
 大やよよ
 ののや
 くらく

